



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記

事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区

土佐堀1-4-8 日栄ビル703A

あゆみコーポレーション内

Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055

E-mail jpca@a-youme.jp

HP primary-care.or.jp/primarycare-kinki/

ニュースレター No.27 (2019.9)

2019.12.1、近畿ブロック地方会が開催されます！今回は特集1 特集2として地方会の魅力に迫ってみました。プライマリ・ケアに関わる多職種のみならず、医療系の学生のみならず、研修医のみならず、どうぞ、ご期待下さい！

特集1：来たれ！第33回 近畿地方会（姫路）2019.12.01へ

同地方会実行委員長 足立 光平（兵庫県支部長）

日本プライマリ・ケア連合学会
第33回 近畿地方会
テーマ 解き放て！地域力！
要項 会期 2019年12月1日(日)
会場 姫路市市民会館 / イーグレひめじ
主なプログラム 姫路市市民会館 9:20~17:00
大会長 空地頭一

近畿ブロック在住の会員各位には、既に何度かご案内しておりますとおり、今年の第33回近畿地方会は姫路で開催されます。連合学会の前身であるプライマリ・ケア学会時代の第2回が1988年に開催されて以来30余年、また姫路城のお膝元に皆さんをお迎えすることとなりました。

(公式ホームページ <http://pc33kinki.umin.jp/>)

メインテーマは「解き放て！地域力！」と少し大袈裟ですが、**プライマリ・ケアの実践が、まさに「地域力」に支えられていること**を意識したもので、姫路から県医師会長に出られ、今回の大会長の空地頭一先生と地元市長他ゆかりの方々との「特別鼎談」から始まる豊富なプログラムで、多職種の参加できる内容となっております。

特に、昼過ぎの**多職種劇回による公演**は、人生50年時代の戦国武将達が、人生100年時代ACPに絡む面白い企画になっており、それを受けたメインシンポジウムでは、「**築け！医療・介護連携の城を**」とのテーマで、本県のプライマリ・ケア協議会の年次研究集会を兼ねた形で、多職種代表により、ACPも展望したディスカッションを深めたいと思っています。

学会県支部として別途開催してきた家庭医カンファレンスも、今回は別記事のとおり「プライマリケア・カンファレンス」から、「ポートフォリオ ポスター発表」「スーパードクターから学ぶ！」という一連の企画を地方会内で並行開催し、若手中心の学びの場を設定しております。もちろん、学会の柱である参加者の口演・ポスター発表も十分な時間場所を取っており、幸い、その予定を満す70件以上のご応募がありました。既に査読も終了し、その分野別配置と個別座長の依頼に入るところです。優秀演題の表彰も、閉会式で予定させていただきます。

しかし何と言っても、学会地方会の成否は皆様方のご参加にかかっております。10月10日を締切りとする「事前参加登録」も、お陰様で既に多くの方にご協力いただいておりますが、いつもギリギリ駆け込みが多い中、早めにお申し込みいただきますようお願い致します。

今回は、事前登録の方には抄録集と参加証を必ず送付させていただきますので、当日はそのままご入場いただき、受付の混乱無きよう進めたいと考えておりますので、あらためて、共に有意義な一日となりますよう、重ねてお願い致します。なお、詳細は必ず上記地方会専用ホームページをご確認ください。

特集 2 : ポートフォリオ関連企画への参加のお誘い

必見!!! 専攻医・指導医の先生方へ

同地方会実行委員 一瀬 直日 (赤穂市民病院)

ポートフォリオは、単に症例や事例をまとめるだけでなく、その経験を振り返りながら自己の成長した点を言語化や図式化することで、日々成長できる自分を確立していくための手段です。専攻医の成長の軌跡を垣間見るとともに、指導医たちが専攻医の成長を支えながら更なるステップアップを促していく姿を御覧ください。第33回近畿地方会では、以下3種類の方法でポートフォリオ発表を開催します。

プライマリケア・カンファレンス

運営講師 一瀬 直日 (赤穂市民病院)、稲岡 雄太 (西村医院)

時間 9:40~11:50

会場 第4会場 (姫路市市民会館 4F 第3会議室)



専攻医および多職種有志より6題のショーケース型ポートフォリオを、スライドを用いて発表していただきます。「多職種連携」「地域健康増進」を主テーマとした発表とともにディスカッションします。発表後、複数のグループに分かれてワールドカフェを行います。「多職種連携の障壁になっているものは何か?」「多職種連携を深めるには何をしたらよいか?」をテーマに語りあいましょう。

ポートフォリオ ポスター発表

時間 12:30~13:30

会場 ポートフォリオ会場 (姫路市市民会館 3F 第1会議室)

専攻医による6題のポスター形式ポートフォリオを、指導医陣が実際にアドバイスする様子を御覧ください。



スーパードクターから学ぶ！合格するポートフォリオの作り方 2019

「添削」または「個別面談」を選択 24名まで（事前登録制）

運営講師 一瀬 直日（赤穂市民病院） 稲岡 雄太（西村医院） 朝倉 健太郎（大福診療所）
中山 明子（大津ファミリークリニック） 石丸 直人（明石医療センター）
三澤 美和（大阪医科大学附属病院 総合診療科） 玉木 千里（京都協立病院）
見坂 恒明（神戸大学大学院 医学研究科 地域医療支援学部門 /
兵庫県立丹波医療センター、地域医療教育センター）

時間 14:50～16:50

会場 第4会場（姫路市市民会館 4F 第3会議室）



事前提出した文書型のポートフォリオを指導医がその場で添削し更に良いものにする支援を行います。「研究」ポートフォリオについてもベテラン指導医陣が直接アドバイスいたします。聴衆としての参加者を歓迎いたします。また当日は、日本プライマリ・ケア連合学会 **草場鉄周理事長**より専門医制度についての展望などもセッション内で講演いただきます。

【報告】第11回家庭医療FD研修会 外来指導 (2019.6.16)



中村 琢弥（弓削メディカルクリニック）

背景: 2019年6月16日に滋賀県高島市にて第11回家庭医療FD（Faculty Development：指導医養成）講習会が開催された。滋賀県における継続的な家庭医養成において、数年にわたって開催され続けている。前日同日と同会場にて研修生向けの講習会が行われており、それに引き続き形で、今回は各地より家庭医育成に当たっている指導医7名の参加があった。

外来診療現場における医学教育（プリセプティング）: 今回は外来診療現場における教育をテーマに指導医同士でのディスカッションを行った。2020年度より初期研修医への指導要綱としてプリセプティングと呼ばれる一般外来現場での教育を行うことが提言されている。今後家庭医/総合診療医の養成においても

より一層外来現場での教育を質高く行っていくことが求められることは自明である。

本研修会では、第一部としてそれぞれの指導医の現場での外来教育の様子や課題を共有していただき、小グループでのディスカッションを行った。研修施設毎に様々な違いがあり、専属の指導者を設定できている施設もあれば、システムを工夫して少人数でも指導環境を担保できるようにしている施設もあった。それぞれの施

設の工夫がお互いに参考になり、今後の環境構築に活かそうであるとの感想を得た。

第 2 部として、3 つの施設の指導医より外来指導現場における特徴的なシチュエーションを共有いただき、その内容を議論することを実施した。今回は少人数の、しかも一定のキャリアを経た指導医が集まっていることもあり、基本的なレクチャーは重視せず、実際に遭遇しているシチュエーションを活かしての学習とした。提示された外来指導の悩みはどれも指導医にとっては困難を感じるもので、かつその苦勞が共感できるものばかりであり、一層議論は盛り上がった。基礎的な外来指導スキルの他、学習者がどのタイプにあるかをどのように診断していくか、学習者のもつ信念との対立、特殊な反応をとる学習者への対応なども話し会われた。活発な議論を経て合計 3 時間の学習会は瞬く間に終了した。

最後に：欧米では家庭医療学の現場での教育手法として外来現場での教育は活発に実施されてきた。日本でも家庭医/総合診療医の養成が行われるようになり、それらの教育手法は次々輸入され、日本の文化や環境に合うように改変されて今も進化を続けている。時代の流れからさらに多くの現場において外来指導は行われることとなった今、家庭医療の指導医が持つノウハウが多くの現場にて実施され活かされることが必要となるだろう。

【報告】第 3 回関西の外国人医療を考える会 (2019.7.21) 大阪市立大学

谷口恭 (太融寺町谷口医院)

The Meeting for Medical Staffs Seeing Foreign Patients in Kansai

As many foreigners point out, there are very few clinics or hospitals who see foreign patients in Kansai. We established this meeting for the purpose of increasing the number of medical staffs who are able to see foreign patients. We welcome not only doctors, nurses, or pharmacists but also receptionists or any other staffs working at medical facilities.

谷口恭 ((医) 太融寺町谷口医院)「日本語も英語も困難な HIV 陽性のアジア人」
 澤田真弓 (メディフォン株式会社代表取締役 CEO)「医療通訳をめぐる最近の動向 (仮)」
 オーストラリア: ジュリア・クネゼヴィチ (英語医療通訳者)
 フランス: 加納信子 (フランス語医療通訳者)
 ロシア: アナスタシーア・オーゼロヴァ (ロシア語医療通訳者)
 中国: 白川忍 (中国語医療通訳者)

今回は各国の医療事情を、実際に現場に関わられている講師陣に講演いただきました。参加者はもともと外国人医療に詳しい人が多かったのですが、それでも「初めて聞くことがあった」「日本とあまりにも違うことに驚かされた」という感想を多数いただきました。個人的には、白川さんの講演で「中国ではカルテや画像は患者のもので患者が持ち帰る」ことや「紹介状という概念がない」ことを聞き、改めて“文化”を知らねば外国人医療ができないことを痛感しました。また、加納さんが紹介されていた「来日直後に旅行者血栓症を発症し長期入院せざるをえなくなったフランス人女性」の症例は印象的でした。言葉、食べ物、文化などが医療の“障壁”になることを改めて認識しました。ロシアの医療事情についてはほとんど予備知識がなかったためにアナスタシーアさんの講演も勉強になりました。ジュリアさんの講演は狭義の外国人医療のみなら



ず、diversity, sexual minority などにも話が及び、改めて「本来の医療」の総論を学ぶことができたと感じています。ディスカッションの時間には参加者からたくさんの質問をいただき、演者と共に議論することができました。澤田さんからは最近の行政の動きを学び、また参加いただいていた南谷かおり先生（りんくう総合医療センター）からは「医療通訳士認定制度」についての最新の情報をお聞きしました。今後ますます外国人医療が複雑化していくことは間違いなく、我々医療者に求められるものが多岐化・高度化していくと思われます。万博が開催されるまでに、もっと多くの医療者に関心を持っていただき、なにわの“おもてなし”ができるよう努めたいと考えています。

[報告] 近畿ブロック幹事会 (2019.6.9) 代議員会 (2019.7.21) 新大阪

近畿ブロック長 雨森正記

近畿ブロックでは2019年6月9日に幹事会、7月21日に代議員会を開催いたしました。会議では2018年の事業報告、決算監査報告、2019年度の事業計画と予算に関しまして承認を得ました。また12月1日に開催予定である第33回近畿地方会から足立光平先生より進捗状況についてご報告いただきました。大変盛りだくさんな内容になり盛況が期待されます。専攻医ポートフォリオ発表会について朝倉健太郎先生より、年々参加者が増加し発表内容も向上しているとの報告をいただきました。専攻医オリエンテーションに関して、一瀬直日先生より近畿ブロックは合宿形式で充実した内容になっているとの報告をいただきました。今年度はそれらの3大行事に近畿ブロック支部からの補助を増額することになっており、支部会員のご理解をいただきますようお願いいたします。

また学会ホームページ上での近畿ブロック支部情報が乏しいとの意見が聞かれました。そのため梶原信之先生に担当していただくことになり早速ホームページの改変をさせていただいております。少しでも支部会員のお役に立てるようにしたいと考えております。何卒よろしく願いいたします。



[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之